

大崎地域を世界農業遺産へ

vol.6 里地・里山の保全と大崎耕土の恵み④

東北地方、特に宮城・山形・岩手県に特徴的にみられる社会組織のひとつ、「契約講」という相互扶助組織を紹介します。

「契約講」とは、契約により相互平等に結ばれた地縁的集団で、病気見舞い、家の建築、屋根のふき替え、結婚式、葬式、農耕などにおける生活互助の役割を担う協同組織のことをさします。「講」には、このような社会生活や経済生活に関し集落ごとに組織される契約講のほか、山の神、雷神、観音菩薩などの信仰を中心としたもの、特定の祭日を中心としたものなどがあります。

かつての農村では、特に農繁期には集中的に労働力を必要とするので、農民たちは相互に援助しなければならず、地縁的な農民間の扶助的関係が重要になっていきました。また、藩が農民を支配するためにつくった五人組制度が、しだいに農民間相互の扶助的性格に変化していった名残とみる視点もあります。

契約講は、地域コミュニティの中で時代の変化と共に形態と役割を変えながら、今もなお大崎地域の各所で受け継がれています。(古川市史、中新田町史、小野田町史、色麻町史、宮崎町史などから)

集落の絆を守り、農業農村の維持につながるシステムとして残していきたい大切な大崎耕土の宝です。



出典：平成24年度大崎地区伝統・伝承芸能記録保存より



【問い合わせ先】産業政策課
世界農業遺産推進室
☎ 23-2281
sangyo@city.osakimiyagi.jp

世界農業遺産勉強会(第5回)

テーマ：大崎耕土の米と大豆～食文化が導く世界農業遺産～
日時：12月12日(土)
14時～16時
場所：パレットおおさき(大崎生涯学習センター)
講師：佐藤 敏悦氏(東北民俗の会)ほか
定員：50人
申込：12月10日(木)まで、電話またはEメールで申し込み



おめでとう！日本人女子初の3階級制覇！！

WBO 女子世界バンタム級 新チャンピオン
おおさき宝大使(古川地域出身)

藤岡 奈穂子 選手



10月19日、東京の後楽園ホールで行われた「WBO 女子世界バンタム級タイトルマッチ(10回戦)」で、古川地域出身で、おおさき宝大使の藤岡奈穂子選手が、対戦相手のユン・ヒジョン選手(韓国)を圧倒的大差の判定で下し、これまで自身が獲得したWBC 女子世界ストロー級王座、WBA 女子世界スーパーフライ級王座に続き、WBO 女子世界バンタム級王座を見事獲得。日本人女子選手では初となる「3階級制覇」を成し遂げました。

10月27日、凱旋報告として伊藤市長を表敬した藤岡選手は「40歳を迎えもう時間がない。次は、4階級、そして女子では前人未踏の5階級制覇を目指し、記録と記憶に残る選手となれるよう、常に準備をしていきたい」と力強く次の目標を掲げてくれました。

ふるさとの皆さんからの声援が何にも勝るモチベーションと話す藤岡選手に、大きな声援を送り続けましょう。



地方創生おおさき元気戦略からのお知らせ

おおさき地方創生サポーター募集

大崎市の地方創生事業を市民とともに推進するため、市内7地域から「地方創生サポーター」をそれぞれ4人ずつ募集します。

活動内容

- ①地方創生事業に係る支援活動
- ②市やおおさき移住支援センターほか、関係機関と連携した活動
- ③生活習慣、地域資源などの地域情報の収集と情報の提供
- ④移住希望者の問い合わせに対するアドバイスと移住後の支援活動

受付期間 12月1日(火)～25日(金)
17時15分必着

申込 政策課備え付けの登録申請書に必要事項を記入し、郵送または持参
送付先 〒989-6188 大崎市古

川七日町1-1 大崎市市民協働推進部政策課

政策課元気戦略推進室

☎ 23-2129

おおさき移住支援センター

大崎市への移住希望者向けワンストップ相談窓口「おおさき移住支援センター」を運営しています。移住定住に関する情報を一元的に集約し、移住希望者への情報提供や相談を受け、希望に添えるようマッチングを図ります。

おおさき移住支援センター

☎ 25-4493

空き家バンクを活用してください

県内の不動産事業者(登録事業者)と連携して、「空き家バンク」

を運営しています。市内で、空き家を所有する人は、気軽に相談してください。

政策課元気戦略推進室

☎ 23-2129

おおさき婚活支援センター

独身者を対象としたお見合いイベントなどを実施し、出会いの場を提供します。多くの人が生涯のパートナーを見つけられるようお手伝いします。

婚活サポーター随時募集

登録した婚活サポーターの働きかけにより、カップルの婚姻が成立した場合、婚活サポーターには、夫婦一組に対し奨励金を支給します。詳しくは問い合わせください。

おおさき婚活支援センター

☎ 25-5389

11月は、国道108号花洲山バイパスの開通式、鹿島台新駅舎の落成と東西自由通路の開通式がそれぞれ挙行されました。また、東京では、おおさき宝大使(観光大使)との懇談会もありました。これらの事業関係者の皆様とは、交通アクセスや拠点整備を契機に、大いに観光交流を推進していこうと、互いにエールを交換させていただきました。

国は、骨太の方針、成長戦略、地方創生の基本方針に「観光」を位置づけ、観光で地方を元気にしようという取り組みをしています。観光は、観光事業者だけでなく、農林漁業、商工業などにも相乗効果があり、経済波及効果、雇用効果も期待される総合産業として、地域振興の救世主になろうとしています。

本市では、合併以来、観光政策顧問やアドバイザーを来年は、仙台空港の民営化や東北新幹線の北海道乗り入れが実現します。5年後の東京オリンピックに向けて、インバウンド(外国人観光客受け入れ)など、追い風が吹いています。観光振興ビジョンを地域・市民一体となって実現し、観光交流で大崎を創生していきます。

大崎市長 伊藤 康志

市長コラム 天・地・人

観光交流で地方創生を！

11月は、国道108号花洲山バイパスの開通式、鹿島台新駅舎の落成と東西自由通路の開通式がそれぞれ挙行されました。また、東京では、おおさき宝大使(観光大使)との懇談会もありました。これらの事業関係者の皆様とは、交通アクセスや拠点整備を契機に、大いに観光交流を推進していこうと、互いにエールを交換させていただきました。

大崎市には、温泉や地酒郷土食や明瞭な四季の移ろい、豊かな里地・里山、素朴な人情といった大崎ならではの強みがあります。「大崎ブランド」を確立し、「大崎にしかない」「大崎でしか体験できない」「大崎固有の観光資源を発掘して磨き上げ、商品開発につなげていくことができます。」

